



P グリーン

生育初期に使うとリン酸を吸う力の強い体質となり、チッ素の吸収と消化が高まり、生育がよくなる。

かわらばん 第117号

2020年5月号

三本立て盆養づくりの育て方紹介



大菊づくりにはいろいろな仕立て方があり、三本立て盆養。ダルマ作り、福助づくりなどがあります。

これらは菊づくりの長い歴史の中から生まれた伝統的な仕立て方です。

さらにこの様に育てる為には定まった型があり、手順どおりに育てなければならぬ部分があります。

今回は三本立て盆養の作り方について愛好家の皆様はどのように作っているのかその例を紹介いたします。

この作り方の特徴は一本の幹から三本の側枝を育て、各々の枝に花を咲かせる作り方です。この枝は、天・地・人と呼ばれ一番高い位置に咲かせる“天の枝”、二番目に高い位置に咲かせる“地の枝”、一番低い枝は“人の枝”と呼ばれ、各々の花は花の高さの半分くらいの差をつけて花を咲かせます。

さらに“地と人の枝”を前側に“天の枝”を奥側に配する決まりとなっています。

書くのは簡単ですがいざ育てるとなると、天と地の枝は伸びたけど人の枝の伸びが悪く三枝がそろわない。などの問題が起きます。

こうした苗づくりの問題をまず解決しないと先に進むことはできません。

(サシ芽の方法はかわらばん116号をご参照下さい)

サシ芽苗を小鉢（5号鉢）に鉢上げする手順

又は箱サシ苗
6センチポット苗



6センチポット 箱挿し



9センチポット
又は3号鉢

※キクにキンコンを根にまぶし
根鉢くずさずにポット上げ
ポット上げまで
20～25日くらいが目安



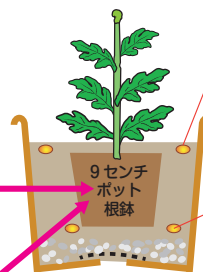
根鉢くずさずに鉢上げ

りんのちから
小サジ 1杯3～5グラム

土は軽くおさえて詰める

11センチくらい伸びたら
表土から10センチで摘芯

5号鉢または6号



りんのちから
大サジ 1杯
10～15グラム

りんのちから
約5グラム

※土は強くおさえて詰める

鉢上げしたらPグリーンを1000倍で灌水



7.5センチポット苗



発根が始まり5～7日後

りんのちから
小サジ 1杯2～3グラム

※キクにキンコンを根にまぶし
根鉢くずさずに鉢上げ

根鉢ができるまで25～30日くらいが目安

みらい・アミノP・K・天然ミネラル・元気に専科
など適宜使うと効果的

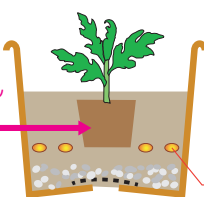
効果も得る
5号鉢で9センチポットの



6センチポット 箱挿し



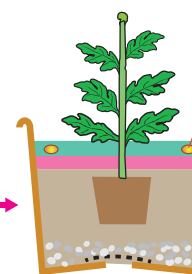
※キクにキンコンを根にまぶし
根鉢くずさずに鉢上げ



りんのちから
小サジ 1杯

土を少なく
9センチポットの効果

5号鉢



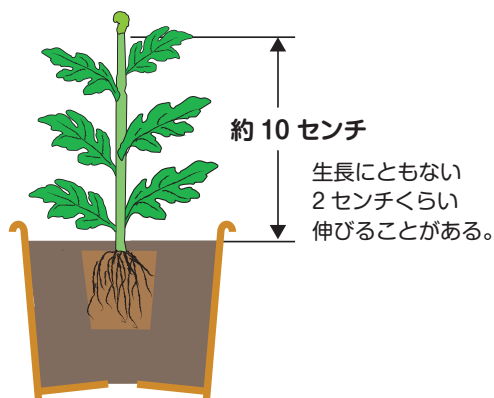
りんのちから
大サジ 1杯
10～15グラム

2回目増し土
1回目増し土

根が張ってきたら増し土し
5号鉢の効果

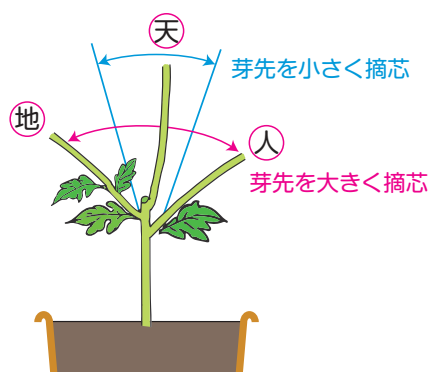
“りんのちからを育苗期に使用すると後々の生育が良くなる”と多くの愛好家が使用しています。

摘芯の位置

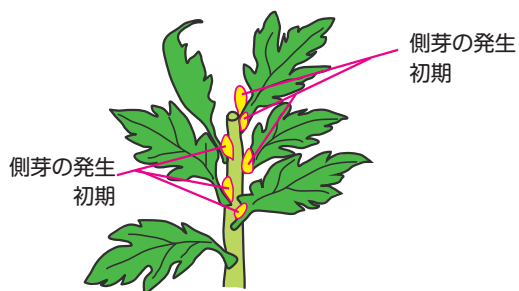


※ 7.5センチポットから鉢上げの場合は
5号鉢で摘芯となります。
9センチポットからの場合は摘芯後に
5号鉢に鉢上げとなる場合もあります。

摘芯の大きさによる側枝の発生



摘芯後の芽の発生



摘芯は枝つくりの始めです。

摘芯とは芽先を摘むことで、葉の元から新芽が発生してきます。これが伸び、天・地・人の三本の側枝となります。

摘芯の適期は約 10 センチくらい伸びた時です。

摘芯をする5～7日前にピーナインを芽先に掛け、節間（葉と葉の間）の伸びを抑えておきます。（500～800倍…品種や生長の勢いによって変わる）

摘芯した後は水をひかえ（萎れぎみ）に管理します。

葉元に芽が小さく（米粒大）見えてきたら、液肥を与え始めます。

こうして天・地・人の枝を揃えて伸ばします。

摘心の位置は低過ぎないことが大切です。低過ぎると浅植えとなり、鉢底近くの根つくりが難しくなります。また、増し土スペースが少なくなり、また冬至芽の発生も悪くなります。上根の張るスペースが少なくなり、花が大きくなりにくい。

摘芯は大きく摘む…小さく摘む

これが三枝の曲げ方に影響

従来の摘芯は「つまようじやピンセット」で米つぶ大くらいに小さく摘み取るのが主流でした。この場合の側枝の伸び方は立ち気味に伸びてくる為、曲げるのに苦労します（枝さけが起きやすい）これでは整枝が大変になります。

大きく摘み取ると側枝は開き気味に発生してきます。その為に曲げるのが楽になり、整枝の際の枝さけが起きにくくなります。現在はこの方法に移行している愛好家が多いと思います。

揃った三枝を伸ばすコツ

「三枝が揃って伸びない」天の枝に比べ、人の枝や地の枝が遅れる場合があります。これは苗の力不足である場合が多いようです。摘芯後にうすい液肥（みらい・アミノPKなど 1000倍くらい）を与えることで解決する場合があります。

また、葉元に米粒くらいの芽が発生した時に液肥を与え始めると三枝が揃って伸びやすい。

※ 注意して管理しても三枝が揃わないこともあります。こんな場合は盆養はあきらめ、勢いの良い枝1本のみを伸ばし切り花で楽しむこともできます。

予備の枝を伸ばすことも大切

三本の枝を伸ばすことは当然ですが、予備の枝1本を伸ばすことも重要です。

天の枝が何らかの理由で使用できなくなった場合、地の枝を天として三枝を作ることもできます。無事に整枝ができればその時に外します。



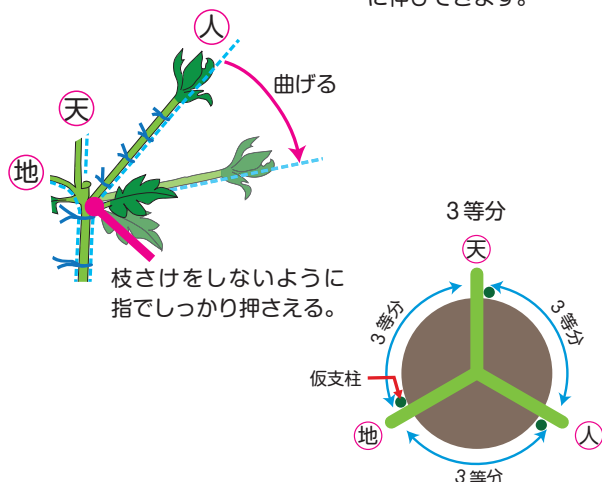
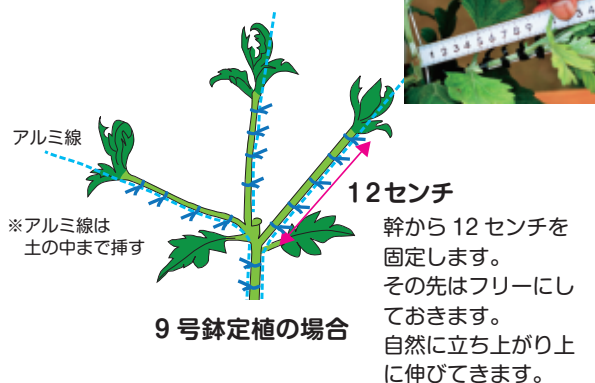
当社の土と肥料 家庭菜園でも最高の結果

食味・香り・栄養価・安全性が
極めて高い野菜ができます。

スプレー菊の土とりんのちから使用



三枝の曲げ方



整枝

摘芯後、側枝が4～5センチ伸び出したらクリップ（接木クリップ等）で葉元に添わせ寝かせて曲げクセをつけておきます。こうしておくと導引の時に枝サケが起きにくくなります。

（経験の浅い愛好家におすすめの方法です）

15センチくらい伸びた時が適期です。アルミ線などの導引具を使い曲げます。

導引具と側枝の固定は「ラフィアやビニールテープを巻きつける」「ビニタイで固定する」「接木クリップで固定する」などの方法が一般的です。

※曲げる時は水をひかえ萎れ気味にしておきます。



ラフィア又はテープ

ビニタイ
（少し違いすぎ）

クリップで曲げクセをつける

上から見て三等分（120度）になるようにアルミ線で固定する。鉢フチに仮支柱（30センチくらい）を立てアルミ線を固定すると良い。

定植の方法

5号鉢で充分に根ができれば、定植用の鉢（厚物9号、管物8号）に植えかえます。

支柱は、天・地・人ともに鉢に固定しておきます。

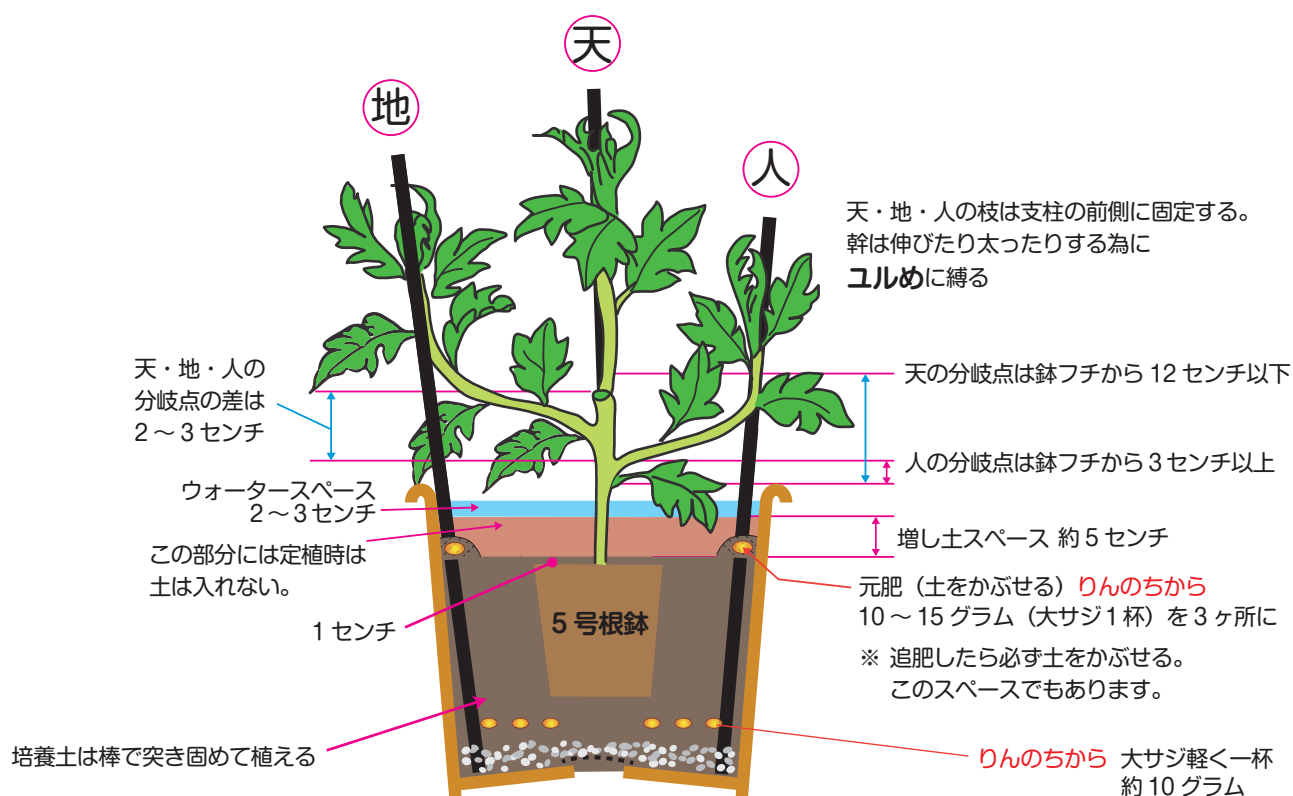
（菊鉢は7号以上は支柱を針金で固定する為の穴がある）定植の方法は、“決まった盆養の型”がある為、その範囲に納まるように植えます（図参照）

5号鉢で決めた天・地・人にしがたい植えます。

「奥が天」「前の左が地」「前の右が人」となります。

幹は支柱の前に固定します。盆養は正面から鑑賞する為に、支柱は幹にかくれるようにする為です。

（地の枝と天の枝は左右入れかわってもよいことになっています）※花名ラベルは正面に必ず立てる。



当社の土及び肥料を使用している方は最高の結果が生まれています。ぜひおすすめしたい資材です。

新商品発売のご案内

6 月発売予定（6 月中旬を目標にしています）

2年間試験をくり返し、今年の秋からの発売を予定している商品ですが、愛好家の皆様の要望があり、前倒しして発売いたします。

肥料の効きめ倍増、植物活性剤

かがやき

予定価格 1 kg 入
¥3100（本体価格）



5 月 18 日撮影 ダルマの親株

ダルマの冬至芽を摘芯し側枝を伸ばしたものです。
生育の早さと勢いが違います。
“できすぎ!!”

※アミノ液肥 555 と混合使用

特 徴

- 肥料の吸収や利用率が高まり、生育促進に極めて効果的です。
- 光合成を高め、栄養分や根から吸収した肥料分の転流を早め、旺盛な生育を促します。
- 暑さ、寒さ、乾燥など環境ストレスを緩和したり、耐病害、害虫などへの免疫力を高め、体質の強化と活性化を促して、健全かつ旺盛な生育となります。

使 い 方

- 500 ～ 1000 倍に水でうすめ 7 ～ 10 日間隔で生育全期間で使用します。
 - 液肥を使用する場合は、同じ倍率で混合使用します。
 - 灌水又は、葉面散布で使用できます。
- ※ 葉面散布の可能な液肥と混合する場合は葉面散布、又は灌水で使用できます。
灌水専用の液肥と混合する場合は灌水で使用して下さい。

おすすめ液肥は **みらい・アミノPK・アミノ液肥555** です。

三本立盆養の例
（7 月末定植の試験用）



使用 未使用
葉長 17 ～ 18 センチ 葉長 14 ～ 15 センチ

サシ芽～苗（7.5 センチポット）
サシ芽 9 月 5 日 鉢上げ 10 月 6 日



サシ芽の水上げ時使用 未使用
生育の違いがよくわかる

耐・高温ストレス活性剤

あつさしらず

予定価格 180cc
¥3100（本体価格）

今年も5月中旬というのに当社のハウス内も30度を大幅に超えるようになりました。
暑さによる生育不良が心配になってきました。
昨年、最高の試験結果がでた“高温ストレス緩和剤”です。
1 回の使用で葉がひとまわり大きくなります。

特 徴

- 本資材の特徴は暑さに対するストレスを緩和し、正常な生長を促す。
主な成分は植物から抽出した安全な特殊成分です。
- 元々、植物細胞が持つ高温ストレス耐性を刺激・活性化することで正常な生育を促すことができます。
- 事前に散布することで高温に対するストレスを緩和することができ、暑さを乗り切ることができます。

使 い 方

- 500 倍に水でうすめ、15 日間隔で葉面散布します。
 - 液肥を使用する場合は、同じ倍率で混合使用します。
 - 灌水又は、葉面散布で使用できます。
- ※ 1 本で盆養 40 ～ 50 鉢に 1 年間使えます。

当社の土と肥料を使用して最高の結果となります。

お申込み・お問い合わせは

ウチダケミカルコーポレイション

Tel.029-869-1777 Fax.029-869-1666

〒300-4204 茨城県つくば市作谷1711-12 郵便振替 00820-6-96628